

若い親の行動に違和感を持つ年配の夫妻のエピソードを通じて、子育て中の若い世代との関わり方を考える

1 共有する

子どもたちが独立した久子夫妻は、ある日遅い夕食に出かけたところ、子ども連れ若い親に出会う。

遅い時間に子どもを外食に連れ出したり、態度の悪い子どもに注意しようとしてもしない若い親の行動を見て、久子夫妻は違和感を持つ。

久子は、後日、孫を連れてきた昌也と冬美に話をする。昌也たちは、若い親にも事情があるのではないかと言うが、久子は納得できない。

久さんは若い親のどの行動に違和感を持ったのだろう？

- 親が遅い時間に子ども連れ出していること
- 親が態度の悪い子どもに注意をしないこと

2 拡げる①

あなたは、遅い時間に子どもを連れ出す親の行動は間違っていると思いますか？

- 間違っている
- 間違っていない(間違っているとはいえない)

なぜそう思うのですか？

- 子どもの生活リズムや子どもの成長に悪い影響を及ぼす
 - 仕事などで子どもと会う時間が遅くしか作れなくても？
- 子どもよりも親の都合を優先している
 - 生活していくために遅くまで働くとしたら仕方がないのでは？
- 遅い時間でないと子どもと過ごす時間が作れない事情があるのかもしれない
- 子どもと一緒に過ごす時間を第一に考えている

2 拡げる②

あなたは、態度の悪い子どもに注意をしない親の行動は間違っていると思いますか？

- 間違っている
- 間違っていない(間違っているとはいえない)

なぜそう思うのですか？

- マナーやしつけを教えるのが親の役割
 - 周りの迷惑を考えるべき
 - どの程度なら迷惑なの？
- それほど大きな迷惑をかけていない。周りが若い親に対して厳しすぎるのでは？
- 遅い時間になってまで子どもとの時間を作ったのに注意すると楽しい雰囲気を壊す

3 深める

あなたが久子さんなら若い親に思いを伝えるべきだと思いますか？

- 伝えるべき
- 伝えるべきではない

どのように伝えますか？

- 子どもにどんなリスクがあるのかを親に直接教える
 - 親自身に気づかせるように伝える
 - 店員など自分より聞いてもらえそうな人から伝える
- それはなぜですか？
- 何を言っても親は変わらない
 - つながりのない自分が言っても聞いてもらえない
 - 人それぞれに考えがあり、久子の考えもその一つに過ぎないから

4 ふりかえる

若い親と関わる際にどのようなことが大切だと思いますか？

- 一方的な説教にならないようにする
- 日頃から声を掛けて、話の出来る関係になる
- 相手の考えを聴き、自分の経験や価値観と照らし合わせ考えを伝える
- 自分の考えと若い親の思いをかさねあわせる共通するものが見えてくる

学習展開のポイント

- ・〈1 共有する〉で、久子さんが若い親の行動に違和感を持った理由は2つに集約されます。
- ・〈2 拡げる①②〉では、「遅い時間に子どもを連れ出すこと」「態度の悪い子どもに注意をしないこと」それぞれについてその是非や理由を考えることで、参加者自身の価値観が表れます。
- ・〈3 深める〉では、若い親に伝えるべきか、その理由や方法について更に深く考えます。
- ・〈4 ふりかえる〉では、この時間の話し合いを通じて、若い親と接する際に大切なことを考えます。

学習上の留意点

- ・〈2 拡げる①②〉で、若い親の行動に対する参加者の是非とその理由を話し合うことで、久子さんにも若い親にも理由があり、どちらも子どもの事を考えての行動であることに気付きます。
- ・「若い親へ思いを伝えるべきか」については、個人的な勇気の有無ではなく、伝える内容や伝え方について話し合うように気をつけましょう。
- ・最後に「若い親と関わる際に大切なこと」について、自分の思いを話すことで一人一人が自分の考えをまとめます